

京丹波町創生戦略 事業評価資料

(28 年度事業)

28 年度戦略事業評価シート

事業名	地域資源活用型企業（起業家）誘致事業	担当課	【商工観光】			
KPI	3年間で地域資源活用型起業家・ベンチャービジネスを5件以上発掘・育成。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	0件			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
企業訪問活動	・金融機関等への情報提供協力要請 ・誘致ターゲット企業への訪問活動	訪問数	3社	229	A	「食・農関連」及び「木材関連」企業にターゲットを絞り、誘致活動を強化する。企業への新たなアプローチ方法を見出し、企業誘致手法を拡充する。
企業誘致PR（東京）	・東京都内で開かれた企業誘致説明会でPR。 大手不動産、金融機関等に町の概要や土地情報などをPRした。	実施回数	1回	93	B	東京都内や大阪市内等大都市圏で開かれる企業誘致PR機会に積極的に参加し、企業誘致PRに努める。また、活用可能な土地情報等を再度整理する必要がある。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	起業・ベンチャービジネス育成事業	担当課	【商工観光】			
KPI	3年間で地域資源活用型起業家・ベンチャービジネスを5件以上発掘・育成。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	9件			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性にに基づき記載）
		指標名	実績値			
起業セミナー	平成28年度は町内起業希望の女性等を対象とした起業セミナーを実施。	受講者数	7人	747	B	女性を対象とした女性起業セミナーなど、ターゲットを絞った事業展開を行った。新たな人材による仕事おこしのきっかけづくりの機会となった。
ふるさと起業出張相談	都市部において起業出張相談会を実施。農村での起業を目指している人材の移住起業相談、生活情報提供を行う。	来場者数	3人	12	B	京都市内の調理専門学校と連携して実施。カフェ開業等を目指す起業希望者等、対象を絞ったことで来場者は少なかったが、農村起業を希望する人材にアプローチできた。
起業個別相談（伴走支援）	行政・商工会・金融機関連携による京丹波町創業支援ネットワークによる起業起業家等の開業及び開業後のフォローアップ支援。	支援者数	28件	16	B	町創業支援ネットワークを通じて行政・商工会・金融機関が連携して起業希望者を支援。3者の連携により経営・財務・販路開拓等を総合的にサポートした。
移住起業ガイドブック制作	町内の移住起業事例の紹介や生活情報を盛り込んだガイドブックを作製し、都市部での起業出張相談等で活用。移住起業PRに活用。	発行部数	1,000部	196	D	町の起業支援施策や各種生活情報を一つの冊子にまとめ、移住相談や起業出張相談等の機会に活用。移住コンシェルジュなどにも配架し、PRに活用した。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	新産業創出事業	担当課	【商工観光】			
KPI	3年間で地域資源活用型新産業（新製品・新サービス）の創出を5件 新規雇用30人以上	H27	H28	H29	H30	H31
		-	1件			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
工場見学会	町産業ネットワーク加入企業相互の工場見学会。	実施回数	4回	15	B	町内企業の連携・交流、活性化のきっかけづくりの機会となった。
企業紹介番組制作・放送	町産業ネットワーク加入企業相互の紹介番組を制作し、ケーブルテレビで放送。	放送企業数	18社	33	B	地域の町内企業への理解が進んだ。放送番組をDVDに編集し、学校教材として提供予定。
販路開拓支援	技術や製品のブラッシュアップ及び販路開拓のきっかけづくりとして、展示会への共同出展を実施。	出展企業数	3社	235	B	出展に際し、既存技術・製品の洗い出し、ブラッシュアップが図られ、販路開拓のきっかけづくりとなった。
高校生インターンシップ	須知高校生を対象に町内企業での短期就労体験。	参加者	11人	13	B	企業にとっては学校と連携した将来的な人材確保や人材マッチングの機会となり、地域への人材定着促す有意義な事業となった。
高校生キャリアアップ講座	町内企業経営者等が講師となり高校生に会社概要や魅力、経営理念をPR。	実施回数	1回	6	B	高校生にとっては、将来的な町内就職の可能性や選択肢を考える有意義な機会となった

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

CATVを利用した企業紹介の取り組みは大変良かった。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	福祉介護人材の確保対策事業	担当課	【 保健福祉課 】			
KPI	介護研修受講者増と併せて、福祉介護事業所における新規就労者の増加（20人）を目指し、離職者の減少を図る。	H27	H28	H29	H30	H31
		4人	0人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
地域ケア会議推進事業	介護・医療等多職種による意見交換の実施 全体会議 1回 参加者：町内介護保険事業所、近隣の入院施設を有する医療機関の相談窓口担当者、民生委員協議会高齢者部会、担当職員 内容：自立支援と重症化防止の再確認＝適性給付 個別会議 3回 参加者：相談家族、地域の関係者、関係機関担当職員 内容：在宅生活を支援するために必要なフォーマル・インフォーマルサービスについて検討	-	-	12	C	少子高齢化が深刻化する当町において、自立支援・重症化防止の取り組みが重要であることを関係機関が共通理解するところまではきているが、限りある介護人材による介護サービスを適性に給付するためには、ケアマネジメントの資質向上が最も重要であることについて、会議を重ねるうちによろやく全体がたどりついたところである。その取り組みの成果を評価する指数を設定する具体的な方法について、平成29年度に引き続き検討し、取り組んでいく。
ケアマネジャー支援事業	町内のケアマネジャーが一同に会し、研修、意見交換、地域のインフォーマルサービス調査等、年間4回開催	-	-	80	C	介護サービスの適性化を目指す研修の充実が必要である。（「きょうと福祉人材育成認証制度」に従い、資格取得にかかる個人への助成は対象外となり、町独自の専門職養成の独自の取り組みを検討する必要がある）

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
地域ケア会議推進事業	地域ケア会議の充実によるチームとしてのケアマネジメント力の向上と、専門職確保の目標数を再度見直す。	公的サービスの需要への供給率	アセスメントに対する公的サービスの提供状況	100%	50	介護職、医療関係職等、それぞれの専門的な立場から、サービス提供が必要な方の見極めを充実させ、より一層の適性給付を目指す
ケアマネジャー支援事業	介護サービスの適性給付に向けた、ケアプラン作成に係る研修を開催する。				122	利用者の自立に対する意欲を持つことができるようなケアプランの作成について、研修を重ねる

■外部委員会の評価（※事務局記載）

改善提案の成果指標について、さらに具体的な指標を検討されたい。

28年度戦略事業評価シート

事業名	京丹波町産木材活用促進事業	担当課	【企画政策課・農林振興課】			
KPI	平成31年度までに、京丹波町産木材使用住宅3軒の建築。関連企業における雇用2名以上を確保。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	-			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
ぬく森のイスプレゼント事業	子どもの健やかな成長と町の森林資源を活用した木工製品を贈ることにより、木の温もりを感じる生活空間の創造と活力ある森林づくりを推進することを目的に、本町出生児に対し町内産木材で制作したイスを贈呈する。	—	—	1,444	B	地元産材活用のPRと木のぬくもりある暮らしの実現に向けた取り組みを継続し、町内産木材の利用促進に繋がるとともに川上・川下事業者同士の連携による活性化を図る。
間伐材搬出奨励事業	ハタケシメジ生産施設に対して京丹波町産材の間伐材を搬入するものへの助成を行なう。	木材搬入材積	760m ³	2,660	B	施設建設当時、近隣8町の取り組みとして地域資源の循環利用システムの構築をめざし整備され、間伐及び間伐材搬出の促進を行なうとともに特用林産物の生産振興と林業就業者の育成・確保を図り、地域林業の活性化を目指して実施している。
林業機械購入助成事業	林業機械（パワーショベル）を導入する。	台数	1台	3,225	D	未利用間伐材を搬出する為の作業路網を整備し、生産性の高い作業システムを構築することを目的としている。
間伐材運搬対策事業	木材搬出にかかる経費に対して補助金を交付することにより、搬出経費の負担軽減をはかり、林内に放置され腐らせていた原木を製材やチップ原料に活用させる。	木材搬入材積	4322m ³	3,000	B	本町で取り組む木質バイオマスボイラへの燃料としても活用できることから、未利用間伐材の利用につながる本事業を継続して実施する必要がある。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

パワーショベル導入によりかなり広範囲から木が出せる。順調に行けば林大の学生の採用を行い雇用につなげられるかもしれない。引き続きお世話になりたい。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	バイオテクノロジーを活用した地域産業活性化事業	担当課	【農林振興】			
KPI	平成31年度末までに地元産酒米使用数量を3,240kgにする。	H27	H28	H29	H30	H31
		2,460	2,640			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
バイオテクノロジーを活用した地域産業活性化事業	地元産の酒米を使用して、地元の酒造会社による日本酒の企画製造をすることにより、地元産の米の消費量増加させるとともに、耕作放棄地の有効活用の一助と繋げるもの。	地元産酒米使用数量	2,640kg	1,500 （平成27年度） 0 （平成28年度）	B	地元産米（酒米）を使った、地元酒蔵による純米吟醸酒の開発によって、オール地元のブランド力強化と、一定の農地利活用に効果を得た。今後、販路の開拓や安定した原料の確保による需給バランスの構築など更なる改善を図る必要がある。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

今後作付け面積を増やしていく必要がある。 対象となっているのは五百万石と思うが、何の品種を推進するのか明確にして進めてほしい。
--

28 年度戦略事業評価シート

事業名	ケーブルテレビ伝送路の光化統一事業	担当課	【企画政策】			
KPI	平成31年度までに京丹波町ケーブルテレビ伝送路のFTTH化を計画し、インターネット接続サービス利用数の100口増を目指す。	H27	H28	H29	H30	H31
		35口	82口			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
インターネット接続サービス	京丹波町ケーブルテレビ加入者を対象にしたインターネット接続サービス（月額利用料2,000円）の提供	サービス利用者増加件数	82口	-	B	平成28年度末で3,176口のインターネットサービス利用者があり、全体加入件数（6,548口）に対して、48%の加入率であり、継続して事業を進める。
自主放送番組の充実	デジタル11chでニュース番組や企画番組を制作し放送することで、地域コミュニティの活性化を狙う事業	-	-	-	B	地域や都市部の大学などと連携しながらのコーナーや企画番組作りを通じて、地域の皆さんの顔が見える情報を継続して放送し地域活性化を狙う。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28年度戦略事業評価シート

事業名	再生可能エネルギー推進事業	担当課		【企画政策】		
KPI	平成31年度末までに関連施設雇用者、林業関係者を10人確保する。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	1人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
バイオマス産業都市構想の認定	本町に豊富に存在するバイオマスをフル活用することにより地域内の資源と経済が循環する仕組みを構築し、林業・農業・畜産業の活性化や雇用の創出などを目指す構想が、関係7府省から認定を受ける。 （平成28年10月5日認定）	新規雇用者	1人	3,924	B	町内で未利用の資源を活用するため、資源量調査や再生可能エネルギーの導入可能性を検証し、地域内での経済循環と新たな産業、雇用確保に向けた事業実施につなげる。
食と農とエネルギーの循環利用プロジェクト	乳用牛ふん尿の新たな活用としてメタン発酵によるエネルギー化に向け、資源量の調査、施設整備計画、維持管理費等の調査分析業務の実施（※29年度継続）					
地域熱供給施設の整備	モデル事業として、和知地区「長老苑・わちエンジェル」への熱供給施設の整備	CO2削減量 197t- CO2/年	-	250,527	B	町内最大の地域資源である森林の活用によるモデル事業を安定的に運用し、林業分野での産業創出や安定した雇用につなげ、随時町内に拡大していく。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
メタン発酵施設の整備	事業化調査に基づくエネルギー供給施設の整備	家畜排泄物の処理量	2万t（現存）× 1/2	1万t	150,000	1万tは既存施設で処理（堆肥化）

■外部委員会の評価（※事務局記載）

評価は妥当であり、今後も継続して事業を進めるべき。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	農林業の担い手対策	担当課	【農林振興】			
KPI	平成31年度末までに農林業の担い手を10人確保する。	H27	H28	H29	H30	H31
		3人	4人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基つき記載）
		指標名	実績値			
新規就農育成事業	新しく就農を希望される方を対象に、技術習得から就農までを一貫して支援する実践的な研修の場として「実践農場」を整備する。	新規就農希望者	2人	858	B	農業経営を開始するためには、農業技術の習得や所得の確保が必要であることから、実践的な研修を実施してもらう。
京丹波町農業後継者育成事業	新規就農者が農業施設や農業機械の整備を行う場合に、補助対象経費の10分の5以内を補助する。	新規就農者	4人	4,541	B	就農計画や経営開始計画の所得目標を達成するために、農業施設や農業機械の整備を支援する必要がある。
就農研修資金償還金助成事業	新たに就農を目指す青年等が借り受けた就農研修資金の償還金に対して助成を行うことにより、就農の促進を図る。			2,240	B	平成25年度までの認定就農者で就農支援資金の借入者が対象となっており、償還金の3分の2を助成する。
青年就農給付金事業	青年の新規就農者を大幅に増加させるため、収入の不安定な就農初期段階に青年就農給付金を交付し、就農後の定着を図る。			18,000	B	交付要件を満たした者に国費100%で交付金を交付する。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

京丹波町は新規就農者に対する手厚い支援や積雪によるビニールハウスの助成等、非常に良い取組がある。一方で地域と担い手がつながっていない例も見られ、相談窓口の明確化を含め今後より効果的なPRが必要。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	定住促進～住み続けるまちづくり事業	担当課	【企画政策課・和知支所】			
K P I	助成制度の活用による移住者数 5組	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31
		1組	0組			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
分譲地購入助成	若者定住者に対し、分譲地の購入費用を助成する。	助成制度利用者数	0組	0	B	本庄分譲地として9区画を整備。残り5区画（馬森4区画、花ノ木1区画）の販売促進に係る広報活動の実施。分譲地の維持管理。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

定期的に助成制度を広報するなど、受け身ではなく積極的な販売促進に向けた取り組みが必要。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	住みつなぐ空き家活用事業（お試し居住による段階的移住の促進）	担当課	【企画政策課・農林振興課】			
KPI	平成31年度末までに関連施設整備を2戸、ゲストハウス利用者10人、移住者を5人確保する。	H27	H28	H29	H30	H31
		8人	10人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基き記載）
		指標名	実績値			
京都丹波就職支援協議会事業	地方創生加速化交付金を活用した亀岡・南丹市と連携し、Uターン者向けに地元企業セミナーや現地見学会、広域パンフレットの作成を実施。	-	-	3,000	C	広域連携で取組むことによるメリットはあるものの、就職環境における各市町における課題の違い（求める人材や事業所の需要等）があることから、再度地域内での取り組みの検討と、加えて28年度に京都府が加わり設立した、京都丹波移住・定住促進協議会における連携事業において、空き家バンク等を活用した住宅供給を強化していく。
京丹波町空き家情報バンク事業	登録された空き家情報を移住希望者等に紹介する	空き家バンクを利用した移住者	10人	-	B	昨年度に比べ、問い合わせ件数等も増加傾向であり、登録空き家と利用者のマッチングが進んでいるため、移住者増につなげていく。
京丹波町「明日のむら人」移住促進事業	地域団体や移住者、空き家の所有者等を対象に、移住に係る事業費を補助。空き家の有効活用により、地域の活性化を図る。	事業活用した空き家改修件数	3件	5,572	B	空き家バンク利用者の移住促進に繋がっているため。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
定住支援住宅整備事業	空き家活用による定住支援住宅整備のための空き家選定、改修計画の策定。	制度利用による移住者数	1世帯×5人	5人	1,000	30年度に1戸整備予定

■外部委員会の評価（※事務局記載）

・空き家バンクの実績値10人は、紹介した人の数が家族も入っているのか。単位があいまいである。また町ホームページでは成約された場合済マークが残っているが、済の物件ばかり集めて表記するなどもう少し工夫して表記してはどうか。

・自然豊か、丹波ブランド、食のみでは他地域との差別化が図れない。京丹波町の地理的条件（分水嶺、利便性等）を積極的に発信するべき。また、移住者ネットワークを組織化し受入体制を構築すること。町営住宅の積極的な入居推進や、制度緩和を行うなど、施設の有効活用に取り組むべきである。

・役場組織に移住促進課を設置し、空き家所有者への声かけ、移住希望者への地域のルールの周知など、より積極的・専門的に働きかけるべき。また、町に対する予備知識のない移住希望者から見ると、ホームページ上の移住情報や子育て情報が非常に分かりづらいため改善が必要。

28年度戦略事業評価シート

事業名	京丹波町まるごと観光フードツーリズム推進プロジェクト事業	担当課	【商工観光課】			
KPI	平成31年度末までに、ご当地メニュー開発3品目、農業体験プログラム5商品、新規就農5件、農園利用者100区画利用。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	1品目			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性にに基づき記載）
		指標名	実績値			
あったらいいな、こんな食べ物コンテスト	京丹波町の特産品を活用した新たな「食べ物」のコンテストと商品開発、販売	開発されたレシピ	1	139	B	和知黒(黒大豆)と卵を使用した「味巻きたまご」(食べコングランプリ商品)を「和」で商品化と販売を実施し、手ごたえのある結果となった
モニターツアー	和知地域の観光資源を活用した周遊モニターツアーの実施	参加者	157人 (10回)	6480	B	ツアー参加者からのアンケート調査を実施したことにより、観光資源の再確認や改善点の把握につながった
ファムトリップ	タイで活動されている日本語タイ語通訳家を招き、京丹波町内の観光地や特産品を案内	招致数	1	0	B	タイで販売されている観光雑誌へ京丹波町の観光情報や特産品などが掲載候補にあがるなど、インバウンドの増加につながる取り組みとなった
ラッピングバス	道の駅で使用されている送迎車両へのラッピング	台数	3	1468	B	旧町ごとの代表的な特産品を車両にラッピングし、町内外へ「食のまち 京丹波町」を発信できた
食の京丹波PR	イベント開催による食のPR（ご当地メニュー構築）	イベント開催	1回	4940	B	食の祭典の開催により、「食の京丹波」という京丹波町最大の魅力を町内外に発信することで、交流人口の増加と地域経済の活性化を目指す
観光シンポジウム	古くから伝わる「サバ」を使った伝統料理の継承と新たな観光資源としての情報発信	回数	1回	138	B	各家庭で作られている伝統食「サバ寿司」以外にも「なれ寿司」など、各地域で伝わる様々な伝統食を再発見でき、また動画によるレシピの保存をおこなった
6次産業化プロジェクト	地域食材を活用した新たな商品の開発	商品数	1品	0	A	京都丹波食彩の工房で活動するNPO法人が、地域の生産物を使用した商品を開発し、府のコンテストでも最優秀賞を受賞。地域農業の活性化や農業への意欲回復などに寄与した。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

伝統食を残していかないといけない。スポットをあてた取り組みが必要。
また、あったらいいな食べ物コンテストは事業化につながらない。このままでいいのか疑問である。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	京丹波町まるごと観光新たな魅力づくりプロジェクト	担当課	【商工観光課】			
KPI	平成31年度末までに交流人口を2,000千人に。観光ファンクラブに500人登録。	H27	H28	H29	H30	H31
		3,710	4,652			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性にに基づき記載）
		指標名	実績値			
森のレンタサイクル事業	アシスト付きレンタサイクルを活用した周遊ルートの開発	実施回数	2回	1,200	B	ターゲット層が明確になったことや、田舎では当たり前の風景がサイクリングコースとして成立すること、また、地域住民への波及効果が高いことなど、事業化への期待が高くなった
ロケ誘致事業	養鶏場跡地のロケ地活用を中心とした町内へのロケ誘致、ロケ弁開発、ロケ関連イベントの実施	ロケ回数	2回	20,981	A	映画「本能寺ホテル」、ドラマ「科捜研の女」のロケを誘致すると共に、町内6事業者によるロケ弁開発、映画イベントを実施し、映画・映像事業者へのロケ地情報の発信と町民への周知を図った
インバウンド商談	海外の旅行事業者をターゲットとした観光情報発信事業	実施回数	1回	247	B	タイでの旅行事業者14社を訪問したが、課題が多い内容であったが、中には特産品に興味を示す事業者もあり、今後は森の京都地域振興社と連携した取り組みが必要
とことこ倶楽部の運営	京丹波観光検定の実施による、町内観光資源の情報発信と新たな観光客の取り込み	会員数	68人	127	A	町観光協会会員への検定問題を送付し、合格者に合格通知と認証バッチを送付した。今後、各種イベントやPR活動において広く周知し、さらに会員の増加を図る

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

・KPIにファンクラブの人数が載っていない。京丹波町を気に入ったりピーターとか住もうかと思っている人はここにしか数字が出てこないため、ここが一番重要な数字である。

・ロケ回数は何回でも良いが、そこに見に来る人をどうやって数えるのか。そこが観光地になったのか、ロケによって京丹波町にどういった効果が出るのかをどう判断するのが現状では判断しようがない。ロケ地を何に結びつける事業なのかかわからない。

・ロケ地については、まだ年数が浅い。他府県はロケ地めぐりの観光ツアーをやっている。結果に結びつくには3年ほどは掛かると思われ、今後期待したい。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	地元学生定着支援事業（※公共施設利活用、空き家活用との連携）	担当課				
		【企画政策】				
K P I	平成31年度末までに町内雇用と定住で10人を目指す。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	7人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性にに基づき記載）
		指標名	実績値			
須知高校教育振興対策交付金事業	須知高校教育活性化推進協議会が取り組む事業に対して支援を行うもの。28年度は資格取得支援として実用英語検定に係る支援を実施。	町内企業就職者数	7人	200	A	28年度は、大学進学に有利で須知高校独自で取り組んでいる実用英語検定への受験費支援を行ったが、町産業ネットワークと連携したキャリアアップ講座やインターンシップなど、須知高校の学び支援を強化することで、将来の進路実現につなげるなど、総合的な連携と支援により、ふるさとへの愛郷心を醸成させる。
		4年生大学進学者数	15人			

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
須知高校教育振興対策交付金事業（拡充）	資格取得支援に加えて、学び支援として「学習支援」「就職支援」など総合的な支援につながる取り組みを支援していく。	町内中学生の進学率	生徒数×1/2	50%	1,029	

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	子どもの健やかな発達事業	担当課	【 保健福祉課 】			
K P I	①専門家の関わりの中、安心して就学を迎えることができる児童の増加。②育児不安の少ない子育てができる保護者の増加。（＝身近な相談者がいる者の割合）	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31
		89.2%	94.9%			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
マタニティ・産後ヨガ教室	妊娠から人とのつながりをつくり、健康的なマタニティ・産後ライフが送れるよう、ヨガ教室を通じた交流と健康づくりを支援する。2回実施	参加率	参加率10%	45	B	妊娠中からのつながりを重視したいが、初年であることもあり、妊婦の参加は産婦の半数であった。認知度が低いことも考えられ、広報が必要である。
ベビ一体操教室	作業療法士による、遊びを通じた成長・発達の支援を実施する。（1回/2ヶ月）	参加率	参加率12.4%	18	B	発達支援の必要な乳児へ、作業療法士の早期介入が可能である事業として重要な役割を果たしている。本事業で作業療法士に係ってもらった乳児は、以後の介入もスムーズである。
乳幼児健康診査（1歳半、3歳児）	乳幼児健康診査問診票による保護者への調査の実施（1歳半健診6/年、3歳児健診6/年）	身近な相談者がいる保護者割合	94.9%	1	B	地域のつながりがある中育児できている状況がうかがえ、相談できる者がいる割合が多くある。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	出会いサポート事業	担当課	【子育て支援】			
KPI	参加者男女80人（のうち成婚し、将来的に町内に定住するカップル2組）	H27	H28	H29	H30	H31
		81人	80人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
出会いサポート事業	観光資源を活かし、京丹波町の地域の魅力を満喫してもらうとともに、若者のパートナーづくりの場の提供のため、出会いサポートツアーを実施。	参加者 成婚組数	80人 0組	600	B	7月にあまごの里、12月に竹野小学校で「ときめきツアー」を実施し、募集定員を超える応募があり、また、参加者のアンケート結果も好評であった。出会いの場の提供、京丹波町の魅力のPR、将来の定住につなげるため、今後も継続した取り組みが必要。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

町への移住・定住のためには出会いの場を提供するだけでなく、そこでの町情報の発信をすることが必要。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	「笑がおで食育」推進事業	担当課	【保健福祉課・教育委員会】				
KPI	食育推進計画の数値目標の達成（8項目）	H27	H28	H29	H30	H31	
		2項目	2項目				

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
学校給食事業	「お弁当の日」プロジェクトを全小学校（5・6年生）で実施	お弁当の日実施	5校中4校で実施	100,027	B	現在は、各小学校毎に交流事業（遠足等）と併せて弁当持参の日を設けている。各学校間・給食センター間の連携が十分とは言えない現状にあることから、全小中学校で実施するためには、今後調整が必要である。
食育推進連絡会	「食」を通じて関係職種が課題や目標を共有し、一体となって活動することで京丹波町の子ども達の健やかな成長及び健康づくりを支援する。	開催数	2回	-	A	子ども達の「食育」に係る栄養士を中心とした町内16団体で構成。情報の交換の中で課題を共有し目標に向かって次に繋がる連絡会ができた。今後も内容を検討し目標に向かって実施。
養護教諭との連携	子ども達の健康状況について幼稚園、小学校、中学校の養護教諭と連携し課題の抽出、対策の検討を実施。	開催数	1回	-	B	年間の積み重ねにより課題が見えてきているが、対応についての難しさが残る。それぞれの役割として出来事業を検討している。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
小学校における食育授業	平成27年度に引き続き、小学校における尿中塩分測定検査及び食育授業を行い、子ども及び子どもを通じ若い世代への両親への減塩対策を実施する。	1塩分 2ナトリウム /カリウム比	日本人の食事摂取基準（2015版）	1男子7.0g 女子8.0g 2男女 4以下	0 （府立大学）	京都府立大学共同実施

■外部委員会の評価（※事務局記載）

子供に向けての事業だけではなく、家庭での食事を担う大人に向けての政策があればなお良いのでは。バランスの良い食事の摂り方が分かるチェックシートなんかは高齢者にも分かりやすい。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	ライフデザイン教育推進事業	担当課	【子育て支援】			
KPI	事業参加者：20人×5年=100人 うち定住10世帯を目指す	H27	H28	H29	H30	H31
		-	9人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
ライフデザイン教育	若い世代に家庭の大切さや子どもを育てることの意義を学ぶ機会を作るため、中学生を対象に子育て体験を聞き、乳幼児とふれあう学習機会を設ける。	事業参加者	9人	8	B	参加した中学生からは将来設計を考える良い機会になったという反応もあり、若い世代が乳幼児の心身の発達と生活、家族や家庭の意義を学ぶことができる貴重な事業として、今後も継続して取り組みを進める。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	学校・地域連携による明日を拓く教育推進事業	担当課	【教育委員会】			
K P I	学校支援地域本部事業の実施校を1校増やす。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	1校			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基つき記載）
		指標名	実績値			
学校支援地域本部事業	国庫事業等を活用し、地域と学校による協働活動を推進する。具体的には、地域の人材が学校の学びの場の支援を行うなど実践活動も含め事業を実施している。	学校支援地域本部事業実施校	1校	921	A	地域と学校とが対等な立場で協働し、地域側のまちづくりと学校側の教育の推進とを両面で推進することができるため、29年度以降町内のすべての小学校で取り組みを推進する。また、総括コーディネーターを設置し本部事業として効果的な事業を展開する。
学校を核とした地域創生推進事業	地域連携の拠点となる学校づくりを進める。	学校を核とした地域創生推進事業実施校	1校	119	A	竹野小学校において、地域住民との共同作業によるモニュメントの製作や学校敷地内を流れる小川の名称募集等を通じて、地域の連携拠点とした特色ある取り組みを進めた。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
地域学校協働本部事業	学校支援地域本部を地域学校協働本部に発展させ、地域と学校が連携・協働し地域全体で子どもたちの成長を支え地域を創生する地域学校協働活動に町内全小学校で取り組む。総合調整役として総括コーディネーターを配置する。	本部会議の開催	2回	2回	2,006	学校支援地域本部事業の名称を変更する。新たに、竹野小学校、丹波ひかり小学校で取り組みを実施し、町内全小学校での取り組みとする。
町長部局との協働による学校モデル構築事業	人口減少・少子化による課題を克服するため、首長部局との連携協働のもと、学校と地域が一体となった魅力ある学校づくりを推進し、人口増加・児童生徒数増加を旨とする地域創生モデルの構築をめざす。	運営協議会設立及び運営協議会の開催	4回	4回	930	都市部の子育て世代をターゲットに情報発信を行い、京丹波町への1ターン・Uターンの増加を狙う。

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	地域子育て支援センター事業	担当課	【子育て支援】			
KPI	子育てサークル0から1へ	H27	H28	H29	H30	H31
		-	0			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
子育て支援センター事業	未就園（保育所未入所）親子を対象とし、子育てに関する情報提供、子育て支援センタールームや保育所園庭の開放など、各種行事の実施。	子育てサークル数	0	2,805	B	保育所入所の需要が年々高まっており、子育て支援センターの参加者が減少傾向であるが、3センターの合同事業を増やすなど、内容の充実を図り、参加者の増加を図る。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
子育て支援センター事業	未就園（保育所未入所）親子を対象とし、子育てに関する情報提供、子育て支援センタールームや保育所園庭の開放など、各種行事の実施。	子育てサークル数	子育てサークル数 0⇒1	1	3,155	認定こども園への移行時に支援センターの1ヶ所拠点化を図る。当面は各支援センターと3センターの合同事業の内容を充実させ、きめ細かな保護者支援に取り組む中でサポートリーダーや子育てサークルの育成を目指す。

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	少子化対策及び子育て支援施策の充実に向けた多子軽減負担（「子育て応援助成金」との相乗効果を想定）	担当課	【子育て支援】			
KPI	子育て支援センター（短時部）利用児童 < 現行 > 19人（内、半額助成4世帯）⇒ 30人（内、半額助成5件、無償化3件）	H27	H28	H29	H30	H31
		-	20人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性にに基づき記載）
		指標名	実績値			
第3子無償化事業	18歳未満の児童が3人以上いる世帯の第3子以降の児童の子育て支援センター事業（短時部）の利用料を保育所利用料と同様に無償化。	利用児童数 無償化件数	20人 2件	288	B	子育て世帯の経済的負担の軽減を図ることができた。幼稚園、保育所利用者との公平性を維持するため、今後も継続した実施が必要である。
多子軽減事業	同一世帯から2人以上の児童が子育て支援センターを同時利用する場合、2人目を半額に軽減、3人目以降を無料とする。	利用児童数 半減件数	20人 1件	42	B	子育て世帯の経済的負担の軽減を図ることができた。幼稚園、保育所利用者との公平性を維持するため、今後も継続した実施が必要である。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	子育て応援助成金 <small>（「少子化対策及び子育て支援施策の充実に向けた多子軽減負担」との相乗効果を想定）</small>	担当課					【子育て支援】
K P I	助成金受給世帯数 150 世帯 / （年額9,000,000円）	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	
		-	-				

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 <small>（単位：千円）</small>	評価	評価の判断理由及び改善事項 <small>（妥当性・有効性、効率性にに基づき記載）</small>
		指標名	実績値			
子育て応援助成金の支給	子育て支援センター事業など、行政が実施する事業に一定制限以上の参加をした就学前児童を有する世帯に「子育て応援助成金」を支給。	助成金受給世帯数	0世帯	0	C	本町の新たな子育て支援施策として、京都府が推進する「結婚・子育て応援住宅総合支援事業（平成29年度新規事業）」等も含めて制度内容を検討する必要がある。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 <small>（単位：千円）</small>	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
子育て応援助成金の支給	上記「子育て応援助成金」について、京都府が推進する「結婚・子育て応援住宅総合支援事業」等も含めて制度内容を検討し、子育て世帯の経済支援を行う。	助成金受給世帯数	当初の数値目標 150世帯	150世帯	0	助成対象、助成金額など制度内容を検討し、平成29年度中（補正）または平成30年度当初からの実施を検討する。（実施の是非も含めて検討が必要）

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	高校生等医療費助成事業	担当課	【住民】			
KPI	転入受給者：10人×5年=50人	H27	H28	H29	H30	H31
		4人	3人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
高校生等医療費助成事業	高校生等が医療機関を受診した時に支払った保険給付に係る医療費の一部を申請により助成する。	転入受給者	3人	2,696	B	今後も継続して広報活動を行い、償還払いにて医療費の助成を実施する。（助成登録者 203人）

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	子ども・子育て応援基金創設事業	担当課	【総務】			
KPI	平成31年度末までに基金積立額を1,000万円(町出資金500万円を原資に創設)毎年事業費として300万円	H27	H28	H29	H30	H31
		11,157	11,960			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要(内容)	成果指標(目標数値)		決算額 (単位:千円)	評価	評価の判断理由及び改善事項 (妥当性・有効性、効率性に基つき記載)
		指標名	実績値			
ふるさと応援寄附金事業	ふるさと納税募集チラシを道の駅や町内外のイベント等で配布し、寄附を呼びかけている。1万円以上の寄附をいただいた町外在住者に対しては、寄附金額に応じ、広報誌、観光パンフレット及び京丹波町で生産・加工されたふるさと産品を送付している。	寄附金額 (うち、子育て支援事業に充当したもの)	11,960,000	11,960	B	平成29年度第3子保育所・幼稚園無償化事業、小学校・中学校通園バス無償化事業、子育て・教育備品整備事業及び須知高校教育振興対策事業に対して、寄附金を充当した。

■改善提案(翌年度からの新規及び改善事業)

事業名	細事業の概要(内容)	成果指標(目標数値)			予算額 (単位:千円)	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価(※事務局記載)

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	学童保育事業の充実	担当課	【教育委員会】				
KPI	平成31年度までに、学童保育時間の延長、学童1組、2組の施設整備。	H27	H28	H29	H30	H31	
		-	-				

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
学童保育事業	学童保育時間の延長にかかる制度設計。	制度設計	未実施	13,739	B	慢性的な保育支援員の不足により、保育時間の延長が実施できる体制が整わず、検討が進まない状況にある。
	学童保育施設の整備検討（1組、2組）	整備検討 （1組、 2組）	検討継続		B	老朽化が進んでいる1組、2組の施設整備については、特に課題が大きい1組を優先し、施設整備の検討（場所、規模等）を進めている。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

支援員の確保について、時間的な制約や報酬など課題を十分整理し、ファミリーサポートセンター事業との連携や、子どもだけでなく高齢者のふれあい拠点とする事業の構築など、複合的に実施することで雇用創出や安心して働ける環境づくりにつながると考える。
また、事業評価の記載ぶりでは具体的にいつ・どのように進んでいくのかがわかりづらい。建物の安全性の観点からも、早期の対応を求めたい。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	地域防災力向上事業	担当課	【総務】			
KPI	平成31年度末消防団員数850人の維持 ・平成31年度末自主防災組織10組織設置 ・平成37年度末非耐震集会所ゼロ	H27	H28	H29	H30	H31
		813	814			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
土砂災害想定 住民避難訓練	土砂災害を想定した住民避難訓練を上高岡地区（中村区、下村区、鎌倉区）で実施。	訓練参加	181人	-	B	引き続き継続した訓練実施により、住民及び町の災害対応力の向上を目指す。
消防団員入団促進	人口減少化で団員数も減少が見込まれる中、地域のつながりとともに、CATVを活用した募集広報	団員数	814人 (H29当初)	-	B	引き続き積極的な広報活動を行うことにより、地域防災力の要となる消防団の充実を目指す。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
京丹波町消防団組織等 審議会	平成20年に策定された消防団の運営に係る基本方針の見直しを行う。	基本方針	審議会答申に基づく策定	-	216	10月中を目指し、審議予定。

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	地域公共交通ネットワーク形成	担当課		【企画政策課】		
KPI	平成31年度までに地域公共交通のネットワーク形成、循環バスの運行本数 3本/日	H27	H28	H29	H30	H31
		-	-			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
現行路線バス利用向上事業	時刻表の改正（全路線）、乗継乗車券の導入	乗車人数	31,622	9,655	A	健康長寿社会への対応、地域交通として担う役割をふまえ、利用し易い環境整備と新たな交通対策を実施することで、住みやすい生活環境の充実を図る。
地域公共交通基礎調査	町内のバス、鉄道等地域公共交通を一体的にとられ、通学、日常生活、観光などに対応する交通の利便性を高めるための基礎調査を実施	-	-	3,618	A	基礎調査による地域の実態に応じて公共交通のサービス向上とコスト縮減に対応する地域公共交通ネットワークの形成に向けて、計画策定を行う。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
地域公共交通ネットワーク計画策定	新規交通網、循環バスの運行に向けた計画策定を行う。	循環バスの運行本数	3本/日	3本	0	

■外部委員会の評価（※事務局記載）

町営バスの乗車人数が減少傾向にある中、運行路線、運行時間などを広く発信し、乗車率をあげる取り組みも必要。町内を巡るバスツアー（運行）など、試行的な取り組みを実施し、町内全体若しくは地区ごとの循環バス運行の検討を図ること。また、乗車ニーズに応じて関係機関（社会福祉協議会、教育委員会等）と協議するなど、運行状況の改善だけでなく、生活実態に応じた対応を検討する必要がある。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	買物支援ネットワーク形成	担当課	【商工観光課・保健福祉課】			
KPI	平成31年度までに、買物バス利用者 年間500人を目指す。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	381人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
買物支援バス運行	買物弱者等を対象に、道の駅を拠点とした買物支援バスの運行。	利用者	381人	4,599	B	各地域の高齢者サロン活動参加者等に利用をPR。普段買物が困難な高齢世帯等の利便性向上につながった。引き続き両課で連携をしつつ利用者や自治会との調整を進め、それ以外の課題も検討していく。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	医師等確保推進事業	担当課	【医療政策】			
KPI	平成31年度末時点でも現状と同じく常勤医師8人以上を確保する。その他医療スタッフ数も現状を確保する。	H27	H28	H29	H30	H31
		7人	6人			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
常勤医師確保事業	京都府、京都府立医科大学、公立南丹病院等との連携強化により常勤医師の安定した確保し、安定した病院経営と町民の安心な暮らしを守る。	確保医師数	常勤医師 6人 非常勤医師 36人	89,502	B	高齢化率の高い当町における地域包括医療の構築及び生活支援型医療の推進には、常勤医師の確保は必要不可欠であるが、医師不足等から常勤医師8名以上の確保は困難であったため、非常勤医師を確保することで事業運営を実施した。引き続き現状の経営規模を維持するために事業を実施する。
医師確保奨学金等貸与事業	医師になるための研修や就学に要する費用を貸与し、かつ貸与した期間を町立医療機関において医師として従事した場合に返還を免除することで、将来的な医師確保を目的とする。	利用者数	0人	0	B	町立医療機関を維持するためには医師確保問題は将来的にも継続すると想定され、医師を志す者を支援することは将来的な医師確保に繋がるものとして継続して実施する。
医師等住宅確保事業	常勤医師や研修医等が家族や単身で居住するための公営住宅の建築すること目的とする。	基本計画策定		1,937	D	平成28年度は医師等住宅を確保するための基本計画を策定し、平成29年度の実設計に向けた準備を整えた。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
医師等住宅建築事業	常勤医師や研修医等が家族や単身で居住するための公営住宅を平成30年度に建築するための設計業務を行う。	-	-	-	14,671	医師等住宅確保事業→医師住宅建築事業

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	健診事業	担当課	【 保健福祉課 】			
KPI	健康寿命の延伸 5年後（平成31年度）に1歳上げる。 （京都府と同じ目標値、連携事業を実施する。）	H27	H28	H29	H30	H31
		-	-			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
ピロリ菌検査	19歳～74歳の過去に検査を受けていない方を対象に、集団検診において血液検査（ピロリ菌抗体検査）を実施。H28年度から年齢を拡大し19歳～39歳を追加した。	受診数	737	1,459	B	若い年代の受診者があり全体で25.9%の要精検者があった。今後の胃がん等の疾患予防につなぐため、継続して実施し、未受診者の受診啓発を行っていく必要がある。
歯科健診	19歳以上を対象に個別歯科健診を実施。新19歳、新40歳には健診を啓発するため、全員に受診票送付。	受診数	288	954	B	歯科疾患予防は健康寿命の延伸のため重要であり、広い年代で定期健診受診を啓発する必要がある。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
乳がん健診（個別）	京都府乳がん検診管外受診制度に基づき医療機関における乳がん検診受診を開始する。	受診数	乳がん個別検診	50	945	
日曜健診の追加実施	特定健診及び各がん検診の日曜健診を10月に実施し、未受診者に受診勧奨する。	受診数	特定健診	1,891	15,423	

■外部委員会の評価（※事務局記載）

健診事業は非常に好評であることから、ぜひ続けてほしい。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	健康で長生きするぞ事業（仮称）	担当課	【住民】			
KPI	ミリオンウォークの参加者5,000人達成（町人口の約3割）、5年後の本町の平均要介護期間を1年未満にする。（H26.12.22付け京都大学医学研究科 医療経済学分野発表の本町の平均要介護期間では、男性1.9年、女性4.0年）	H27	H28	H29	H30	H31
		-	-			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
特定健診・特定保健指導事業	40歳～74歳の国保加入者を対象とするメタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防のための特定健康診査及び保健指導を実施。	受診率の向上	52.0% （実績見込）	13,946	B	特定健診の受診率が伸び悩み、特に保健指導の受診率の向上が今後の課題である。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	地域包括ケアシステム構築推進事業 ※ご近所力の強化	担当課	【保健福祉課・瑞穂支所】			
KPI	町内全域で自主的な高齢者交流事業、介護予防事業に取り組む高齢者ふれあいいきいきサロンの数、脳トレ・筋トレの実施会場、冬場の健康相談実施箇所数の増加 3年間で全ての区等での開催を目指す。	H27	H28	H29	H30	H31
		72区	73区			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基つき記載）
		指標名	実績値			
コミュニティ・コンビニ整備事業	高齢者福祉サロンの開催	活動（年間）	3回	200	B	小人数集落では出来なくなってきているサロンを旧小学校区単位で集まることにより多くの参加者で高齢者の憩いの場として提供することができた。また、送迎バスを利用することにより参加しやすい環境づくりを整えた結果、多くの参加があった。
コミュニティ・コンビニ整備事業	朝市等を通した都市交流事業	出展者数	5組	200	B	旧質美小学校を拠点に、朝市を開催出展者は年間を通して5名程度であった。地元イベントにも出店。都市交流事業では、IUJターン者交流会では地元でとれた小豆ともち米を使い餅つき大会をするなど交流の場づくりができた。
コミュニティ・コンビニ整備事業	特産品加工の取組み	特産品	3品	100	B	視察研修をし、ゆず加工品（ジャム、味噌、ピール）に取組んだ。地元の秋祭りに出店し販売するなど特産品のPRに取組んだ。
地域介護予防活動支援事業	住民自身の手による地域の支え合い活動である小地域福祉活動を積極的に支援すること（ふれあいサロン・筋トレ脳トレ・3A・傾聴など）	実施回数の増加	延1,434回 /5,728人参加	1,684	B	形は何であれ、住民主体の活動が増えることで、高齢者の共助、互助、閉じこもり予防、居場所つくりにつながると思われる。
家族介護支援事業	行方不明になる心配のある高齢者の事前登録、捜索協力団体の募集、登録により、行方不明予防、早期発見のためのネットワーク構築	事前登録者数、協力団体数の増加	事前登録11名、協力団体5団体	0	A	広報や案内方法を工夫し、登録を推進すれば、より強固なネットワークが働き、高齢者や家族の安心に繋がる
認知症サポーター養成講座	認知症を理解し、本人や家族を見守り支援するサポーターを養成する講座を地域の団体等の要請に応じて開催する。講座の講師役であるキャラバンメイトの資質向上を行う。	サポーター養成数の増加、キャラバンメイト活動の増加	6講座開催、サポーター養成256人	44	A	広報や案内方法を工夫し、幅広い年代層に働きかけて講座を開催することにより、理解啓発を推進する。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		
家族介護支援事業	行方不明になる心配のある高齢者の事前登録者に名前シールを配布し身につけることで、不明時により早い発見、安全確保につなげる	事前登録者の増加	現在の登録者数 +新規登録者	20名	405	

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	畑川ダム周辺整備事業	担当課	【 土木建築 】			
KPI	京丹波町の交流人口を平成31年度に2,000千人に拡大する。	H27	H28	H29	H30	H31
		3,710	4,652			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
畑川ダム周辺整備計画に伴う基本計画策定関連事業	平成23年度にまとめた基本構想に基づき、意見聴取した結果を取り入れ、今後実施する実施設計の資料作成をしたもの	交流人口の拡大	-	2997	B	平成24年度に完成した畑川ダムにより新たに創出される水辺空間を生かし、町民の健康増進、交流拠点の場とするため今後においても計画的に進めるもの。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	丹波自然運動公園周辺整備事業	担当課	【 土木建築 】			
KPI	京丹波町の交流人口を平成31年度に2,000千人に拡大する。	H27	H28	H29	H30	H31
		3,710	4,652			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
町道蒲生野中央線測量設計業務	地域道路ネットワークの強化のためのメインストリートとしたまちづくりのための道路改良の実施のための実施設計	交流人口の拡大	-	2000	B	本路線は、国道9号線と27号線を結び蒲生地区を横断している重要な路線である。国道を連結する道路として通行する車があるが、現況は幅員狭小（W=3.2m）で離合が困難となっているため、整備を行い安全確保が必要がある。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	「道の駅」地域拠点機能強化事業	担当課	【商工観光】			
KPI	京丹波町の交流人口を平成31年度に2,000千人に拡大する。 既存道の駅の入込み客数を縦貫道開通による一般道交通量減少（2割～3割減） に対して、道の駅入込み客数を10%緩和する。（1割～2割減）	H27	H28	H29	H30	H31
		3,710	4,652			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
道の駅連絡協議会	京丹波町道の駅連絡協議会の設立による町内道の駅の運営強化と観光情報の発信			0	A	町道の駅連絡協議会を設立し、更なる道の駅の運営強化と情報発信を目的とした事業検討をおこなった。
食の京丹波活性化プロジェクト	道の駅連絡協議会と朝一出荷者(生産者)、大手民間食品製造会社との連携事業	事業数	1		A	道の駅に出荷される町内産食材の新たな販売ルートが確立し、連絡協議会の目指すべき方向のひとつが発見できた
「和」レトルトパック機器の修繕	経年劣化した機器の修繕			800	B	「和」の売れ筋商品となっているレトルト商品を製造する機器を修繕し、安定した施設運営につながった
「瑞穂の里・さらびき」トイレリニューアル	設置から20年が経過したトイレをリニューアル (※京都府事業)				B	管理者である京都府によりトイレや駐車場などのリニューアルがおこなわれ、道の駅の集客増につながった

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	町道舗装維持修繕事業	担当課	【土木建築】			
KPI	平成30年度の定期点検までに28年度の結末において補修が必要となった1級及び2級町道において補修を完了させる	H27	H28	H29	H30	H31
		1路線	1路線			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
舗装修繕工事	平成25年度路面性状調査による修繕計画に基づき計画的に舗装修繕を行うもの	補修完成路線数	1路線	31281	B	修繕計画に基づき、引き続き計画的な事業実施をしていく。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	橋梁維持修繕事業	担当課	【土木建築】			
K P I	平成31年度までに346橋全ての総点検を完了させる。	H27	H28	H29	H30	H31
		95	95			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
橋梁修繕工事	点検要領に基づき、補修が必要な橋梁を計画的に修繕するもの	点検橋梁数	-	33640	B	点検要領に基づき、補修が必要となった橋梁を計画的に修繕実施していく
橋梁点検業務	法律に基づいた橋梁点検を計画的に実施するもの	点検橋梁数	95	30246	B	法律に基づいた橋梁点検を計画的に実施し、安全な道路利用につなげる。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	公営住宅維持修繕事業	担当課	【土木建築】			
KPI	平成31年度までに修繕周期を経過している町営住宅の計画的な修繕を完了する。(24戸)	H27	H28	H29	H30	H31
		-	-			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
町営住宅調査事業	「公営住宅等長寿命化計画」の策定見直しに係る既存町営住宅の修繕箇所及び費用調査	計画的修繕	調査	1,998	B	今回の調査結果を基に、「公営住宅等長寿命化計画」の策定見直しを行い、計画に沿った修繕を実施する。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28年度戦略事業評価シート

事業名	住宅改修補助事業	担当課	【土木建築】			
KPI	年間100件の利用者による町内商工業の活性化を図る。	H27	H28	H29	H30	H31
		91件	80件			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基づき記載）
		指標名	実績値			
住宅改修補助事業	町内に住所を有する者が、町内に建築された住居の改修に要する費用の一部を補助するもの	改修件数	80件	6,087	A	平成26年度から平成28年度の事業実績から平成29年度以降においても一定の成果が得られると思われ、対象工事を拡大して事業を実施する。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

特に意見なし。

28 年度戦略事業評価シート

事業名	「地域（ふるさと）再生事業」	担当課	【企画政策課・和知支所】			
KPI	農家民宿設置数を1件以上増設。	H27	H28	H29	H30	H31
		-	-			

A：拡充	今後内容を拡充して実施する必要がある
B：継続	当面の間、現状のまま継続して実施
C：見直し	事務事業の効率化等により見直す必要がある
D：終了	目的が達成されたこと等により終了する場合

■事業を構成する細事業

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）		決算額 （単位：千円）	評価	評価の判断理由及び改善事項 （妥当性・有効性、効率性に基つき記載）
		指標名	実績値			
国定公園施設整備事業 （京都府事業との連携）	・平成28年3月に指定された京都丹波高原国定公園における利用促進のため、仏主区内に施設整備（トイレ設置）にむけた調整を行う（※29年度設置） ・仏主区内にある水車を活用し、地元産米を「水車米」として商品化、町内道の駅で限定販売。	農家民宿利用者（年）	160人	-	B	地域住民が国定公園に指定されたことを契機に、都市住民交流を中心し、活性化の取り組みを進めている。取組みにおける支援内容を協議する中で、引き続き必要な支援制度を地域と検討し、活性化につなげていく。
駅再生プロジェクト	鉄道利用者の町の玄関口として、駅を中心とした周辺地域の賑わいの創出。平成27年度洋式トイレ化。平成28年度駅舎（売店喫茶、待合、テラス）改修。 駅前広場、案内サイン等の整備	駅利用者数（開札通過者数）	162千人	7,485	B	駅利用者については、通勤通学の利用者はほぼ一定で推移しており、観光、旅行者の増加が、駅利用者の増加につながるため、駅整備と観光事業との連携、鉄道からの2次交通の利便性向上が必要。

■改善提案（翌年度からの新規及び改善事業）

事業名	細事業の概要（内容）	成果指標（目標数値）			予算額 （単位：千円）	補足説明
		指標名	指標の算出根拠	目標値		

■外部委員会の評価（※事務局記載）

景観のみをもって目的地となることは困難であり、一過性のイベントでは継続性がないため、景観を活かした受入体制を検討し、目的地となる取り組みが必要。